

## 令和3年度 卒業式の式辞

福井工業大学学長 掛下知行

卒業生の皆様、そしてご家族・保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。本学を代表してこころよりお祝い申し上げます。

保護者の皆様には、一部参加とコロナ感染拡大防止対策のため You-Tube での配信とさせていただきますこと、大変ご迷惑をおかけしております。

今日ここに、学部 515 名（工学部 265 名、環境情報学部 177 名、スポーツ健康科学部 73 名）、大学院博士前期課程 12 名、博士後期課程 3 名の方に学位記を授与することが出来ましたことは、私どもの深く喜びとするところであります。

昨年の夏以降は一時、コロナ禍も下火になりましたが、年末からオミクロン株が顕著になり、現在その感染者数がおびただしい数になっております。このような難しい状況にありながら、無事、本日ここに皆さんと、学位記授与式を挙行できますことは喜びに堪えません。

今、皆さんの心の内は、在学中の様々な思い出が去来している事でしょう。特に、皆さんは、4年間の大学生活のうちのほぼ2年間をコロナ禍と対峙することになりました。十分大学生活を謳歌できなかったこともあったことでしょう。さらには単位取得あるいは卒業研究の遂行には大変な苦労があったことは想像に難くありません。しかしながら、皆様は、この状況を乗り越えて卒業を迎えたこととなります。本当に頑張りましたね。

皆様も感じられていると思いますが、コロナ禍の状況であるからこそ、見えてきたもの、明らかになったことがあります。それは、我々の社会は、人と人とのコミュニケーションで成り立っていることです。例えば、大学での授業、クラブ活動、さらには学外のアルバイトなど、いずれの例をとっても、人と人との交わりで成り立っていることを実感したのではないのでしょうか。そしてそれは、社会を前に進めていく原動力となっていることや、円滑に進めていく鍵となっていることを、目の当たりにしたのではないのでしょうか。このコミュニケーションの大切さ（認識）は、皆さんが社会に出た後、さらには今後の皆さんの人生にとって必ずや大きな糧の一つとなるでしょう。コロナ禍が我々に教えてくれた大きな学びの一つとして心に止めておきましょう。

この人と人の交わり（コミュニケーション）が重要だと云う認識の上に立つと、美しい、奥ゆかしい響きを持った言葉が思い出されます。その言葉は、人と人の交わり（コミュニケーション）の基本が感謝の気持ちであることを述べています。

その言葉は、「おかげ様」という言葉です。この言葉について少しお話をいたします。

皆さんもこの言葉は使わないまでも、この言葉の意味はご存じでしょう。これは感謝を示す際に使う言葉ですが、日常でよく使う言葉です。いろいろな場面で出てくる言葉です。しかしよく考えてみますと、この「おかげ様」とはいったい誰に対して言っているのでしょうか？ 手紙のあて名書きにつける「様」がついているので、誰かが対象であろうかと想像で

きますが、どうでしょうか。結論から述べますと、この言葉は、仏教用語の縁起という言葉に由来していると言われていました。すなわち、単純な直接的な因果関係だけではなく、周りの環境との相互作用からも影響を受けて、その出来事が、惹起したと考えるのです。これが、「縁起」と言われます。

例えば、皆さんが、指導して頂いている先生に褒められた場合、「おかげ様です」と答えたとしましょう。この時の「おかげ様」は、誰を指しているのでしょうか？ 指導して頂いた先生を指すのでしょうか？ 実は、先生に「おかげ様です」と答えることは、直接に手を差し伸べてくださった先生にお礼を言うのみならず、その背後にあって、つまり陰となって、場を作ってくれた人たちにもお礼を言っていることを意味しています。一人一人を挙げて感謝したいのですが、沢山の人が複雑に関連していて、すべての人を挙げて網羅することができないため、その代わりに「おかげ様」と言って、すべての方々に感謝するという事です。さらに、自分が気付いていない大勢の方々、つまり陰の方々ですが、それらの方々の尽力があったからこそ成し遂げたと考え、その自分が気付いていない大勢の方も「おかげ様」と呼んで感謝しているのです。

私の友人で、定年間際で博士号を取得した人が居ます。他の大学の教員をされていたのですが、研究に割く時間がなく、これほど時間が掛かりました。彼が博士論文を仕上げ、最後に、謝辞を執筆した時の話をしてくれました。苦しい中、いろいろ支えてくれた方々を思い出しては一人一人名を挙げて謝辞を書いていったそうですが、感謝に堪えず、涙が出て仕方がなかった。そんな話をしてくれました。そのような心豊かな、周りすべての方々に感謝する言葉が、「おかげ様」なのです。だから奥ゆかしい響きをもった言葉と、最初に述べたのです。

皆さんには、「おかげ様」に感謝できる人となって、社会に旅立ってほしいと願っています。この心を持てば、結果として良好なコミュニケーションが生まれ、新しい場所で良好な人間関係を作ることができるでしょう。コロナ禍で、人と人のつながりの重要性を認識した今、一歩踏み込んで、人と人の交わりの基本が「おかげ様」という感謝の気持ちであるという思いを持ってほしいと思い、この話をしました。

もう一つ、今回のコロナ禍に関連してお話をさせていただきます。今回のコロナは、約2年間にわたり、そして現在も私たちを苦しめています。しかしながら、私たちは、歩を止めることはできません。実は、先人達も同様な苦勞を味わっています。

有名な人物として、アイザック・ニュートンがそうでした。彼は、リンゴが木から落ちるのを見て、万有引力の法則を発見したと言われるイギリスの科学者です。1665年(約360年

前)、彼は、ケンブリッジ大学のトリニティ・カレッジで学士の学位を取得します。ちょうどそのころ、ロンドンではペストが大流行します。この影響でケンブリッジ大学も閉鎖されることとなります。彼は同年 1665 年から 1666 年にかけて故郷のウールソープへと疎開します。2 年間に及んだ疎開でした。まさに皆さんと同年齢の時に疎開する羽目になりました。

彼は、この疎開していた 2 年間に、「ニュートンの三大業績」とされる、「微積分学」「光学」「万有引力」の着想を得ます。このため、この疎開していた期間は後に、「驚異の年」とか「創造的休暇」と呼ばれます。ここで注目すべきは、皆様と同じような年齢で、同じようにペスト禍で 2 年間も自宅に閉じこもっていなければならなかったニュートンが、その閉じこもっている期間に、このような偉大な仕事を成し遂げたことです。何が彼にそのような偉業を成し遂げさせたのでしょうか。

この間のことを記載している記事には、この創造的休暇で、ニュートンは日常の雑事から離れることができたので、研究に没頭することができたとする記述が多くありました。このことから、ニュートンは、ただ心の赴くまま、自分の興味のある研究に専念できる時間を得、成果を上げたのかとも思いました。

しかし、ニュートンの言葉に次のような一説があるのを見つけました。「今日なし得ることに全力をつくせ。しからば明日は一段の進歩あらん。」これを見つけた時、彼の、創造的休暇の期間も、このように毎日自分を奮い立たせていたのだらうと思ひ、偉業を成し遂げたことが腑に落ちました。

ペスト禍にあっても、心構えや人生哲学を持ち、人生に立ち向う姿勢より、結果が大きく変わってくるのが、ニュートンの創造的休暇から伺うことができます。皆様も是非、参考にさせていただければと強く思います。

この 2 年間、日本においても、世界においても、社会の在り方や、人々の考え方は大きく変わりました。これまで当然のこととされていた考え方、価値観や生活様式、教育、企業活動、社会活動などすべてが劇的に変化しつつあります。このようなことを「パラダイムシフト」と言います。皆様は人類の歴史でも未曾有のパラダイムシフトの時に卒業し新たな道に進まれることとなります。この時期には人間にとって極めて有用な大きな変革を短期間で達成することが可能であり、皆様は正にそうした変革の担い手として活躍することができます。ですので、皆様が、先に述べた、「おかげ様」の言葉に秘めた感謝の気持ちと、「今日なし得ることに全力をつくせ」という気持ちを持ち、自分のアイデアやひらめきを大切にその実現に向かって邁進されることを切に願います。

皆様の旅立ちに際し、心からのエールを送り、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。